

来週の市場とレート予想

	3/19(月)	3/20(火)	3/21(水)	3/22(木)	3/23(金)
無担保O/N			△0.080% ~ 0.001%		
銀行券	△100	トシ		△1,000	△1,000
財政他	△6,200	+53,000		+3,000	△5,000
資金需給	△6,300	+53,000		+2,000	△6,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債発行(5、10、20、30年) 国債償還(5、10、20、変動15年)			
オペ期日	共通担保(全店) △2,300 CP等買入 △300 社債等買入 △100 国債補充供給 +800 貸出増加支援 △20,300		祝日		被災地支援 トシ
オベスタート	共通担保(全店) +1,400 ETF買入 +400	国債買入 +3,100			
(日本)	貿易統計(2月) 資金循環速報(10-12月)				消費者物価指数(全国2月) 営業毎旬報告 (3月20日現在、日銀) 保有する国債の銘柄別残高 (日銀) 国庫短期証券の銘柄別買入額 (日銀)
(海外)	米 アトランタ連銀総裁、講演 G20財務相・中央銀行総裁会議 (ブエノスアイレス、20日まで)	米 FOMC(21日まで) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数 (3月、速報値) 中国全人代、閉幕	米 FOMC政策発表 経済予想とFRB議長記者会見 米 経常収支(10-12月) 米 中古住宅販売件数(2月)	米 新規失業保険申請件数 (17日終了週) 米 FHFA住宅価格指数(1月) 欧 ユーロ圏製造業・サービス業・ 総合PMI(3月、速報値) 欧 ECB経済報告 欧 EU首脳会議 (ブリュッセル、23日まで)	米 耐久財受注(2月) 米 新築住宅販売件数(2月) 米 アトランタ連銀総裁、講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初364兆900億円から始まった。その後は14・16日の短国・国債の買入れ、16日の貸出増加支援オペ等によって増加し366兆2,400億円を越えた。無担保コールON物金利は、週初から15日まで調達ニーズが非常に弱く、△0.08%台での取引も多く見られる展開が続いた。その間、加重平均金利は△0.06%台後半での推移となった。新積期となる16日は、調達ニーズは若干戻ったものの、軟調な展開は変わらず、加重平均金利は△0.063%となった。ターム物は、期内物のショートタームを中心に△0.03%を挟む水準の出合いが散見された。16日、日銀総裁再任、副総裁就任人事が衆参両院の本会議でそれぞれ賛成多数で可決された。

来週は、国内では、消費者物価指数(23日)、海外では、FOMC政策発表、FRB議長記者会見(21日)、などが予定されている。

<CP>

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約9,000億円で、週間償還総額の約1兆300億円を下回った。一般事業法人は、重工業・電気・鉄鋼等の各業態で大型案件が見られたが、有利子負債の削減ニーズが勝り、案件数は多くなかった。市場残高は、17兆円台前半で推移した。発行レートは、ディーラーの購入ニーズが強く、期内・期越物を問わずマイナス~0%近辺での出合いとなった。13日に、CP等買入オペが5,000億円度でオフアされた。入札結果は、按分レートが△0.043%、平均落札レートが△0.032%と、前回は(3/6:按分△0.013%、平均△0.007%)で各々低下した。来週の償還総額は、約1兆3,300億円となっている。一般事業法人の発行ニーズは期越え要因から後退しており、先週同様償還超となるだろう。発行レートは、期越物については、ディーラーの購入ニーズが強くマイナス圏内での出合い。期内物は、玉不足からマイナス~0%近辺の出合いを予想する。

<TDB>

15日に行われた国庫短期証券3M第745回債の入札は、最高落札レート△0.1423%(前回債△0.1824%)、平均落札レート△0.1539%(同△0.1976%)と前回入札からマイナス幅を大きく縮小。また16日に行われた1Y第746回債も、最高落札レート△0.1408%(前回債△0.1607%)、平均落札レート△0.1427%(同△0.1627%)と前回入札から利回りが上昇した。週末のセカンダリー市場は、新発3ヶ月物は△0.155%近辺の出合い。新発1Yは△0.165%前後まで買い戻しが見られた。来週は22日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.13%~△0.14%から始まり、以降週央にかけては△0.12%~△0.135%の出合いが続いた。短国3Mの発行日である19日受け渡しでは△0.11%近辺まで小幅上昇。週末の20日受け渡しは国債の大量発行日であったが、レート水準に変化は見られず△0.11%近辺の取引が中心であった。SC取引では5年134回債のbidが多く、週初△0.40%前半~半ば。以降は△0.50%台の出合いが続いた。10年債349回債は週を通して概ね△0.10%台後半~△0.20%台後半で取引された。他2年383・384・385回債、5年131・133・134回債、10年336・337・338・339・340・342・343・346・347・348・349回債、20年162・163回債、30年56・57回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。